

ようこそ！ ボラカフェへ

学生
編



「みんな、いつ、どこで、どんな活動をしているんだろう?」、「なんでボランティアを始めたの?」そんな疑問を持っている人もいるのではないのでしょうか。今回ボラカフェに集まってくれたのは、学業とボランティア活動を両立しながら、忙しい日々を送る10代から20代の学生3名。いまどきの若者の観点から、ボランティアについて語っていただきました。(この記事は2018年8月25日に開催した座談会を要約したものです)

ボランティアとの出会い

梶浦 ボランティアを始めたのは大学に入ってから。大学の先輩に「人手が足りないから来て!」と言われたのがきっかけです。参加してみたら、その活動が想像以上に楽しかったんです。知的障害がある人たちと一緒に活動するボランティアで、休日にキャンプに行ったり、水族館に行ったりします。名前を呼んでくれたり、笑ってくれると、とてもうれしくなります。障害者の方の付き添いだから入館料が無料になるのも、学生にとってはうれしいですね。

杉原 ある日、友だちと出かけた帰り道に、急に友だちの具合が悪くなって、突然倒れてしまったんです。通り過ぎていく人も多い中、近くにいた男性が助けてくれて、救急車も呼んでくれました。その時は慌ただしくて、その方にお礼を言えないまま別れてしまったけれど、これからは自分も困っている人がいたら助けられたいなと思って、ボランティアを始めました。視覚障害者テニスのボラ

ンティアは、インターネットで「中学生でもできるボランティア名古屋」をキーワードに調べて見つけました。テニスコートの設営やボール拾いなら手伝えると思って参加したら、障害者の方とテニスをするようになってビックリ!ルールもわからなかったし。今は、いつも利用している体育館が工事中で使えないのでテニスの活動はお休みですが、他にも特別養護老人ホームで認知症のおいちゃんやおばあちゃんとのふれあいボランティアもしています。相手が何を話しているのかわからなくて、困ることもあるけど、「また、来てね」って言われると、すごくうれしくなります。

水谷 僕はお母さんが大学生の頃に障害者の方と一緒に活動するボランティアをしていたと聞いて、「カッコいい!!」と思ったから。それでお母さんと一緒に「ぼらマッチ!なごや()」というイベントに行きました。そこで「僕にもできるボランティアってありますか?」と聞いたら、おもちゃ図書館のことを教えてくれました。自分で行けそうな場所だし、小さい子が相手に楽しそうだなあと思って。4年生の夏に始めて、3年目になります。電気系のおもちゃをいじるのが好きで、簡単な修理もします。

学生生活とボランティアの両立

梶浦 私が在籍している心身障害福祉研究会では、「この日にこういう活動をするので、参加できる人は連絡を下さい」といったLINEがサークルのメンバー全員に送られてきて、希望者が参加するというシステムです。私の場合、活動は月に1回、多いときは5~6回ですが、活動日は土日なので、授業と重なることもあまりないです。私にとってボランティアは趣味のようなものだから、授業やアルバイトの予定を見ながら、参加できる時に活動しています。



梶浦 さくらさん [大学2年生]
同朋大学ボランティアネットワーク「みらい」
・心身障害福祉研究会在籍



杉原 百合子さん [中学3年生]
視覚障害者テニス・特別養護老人
ホームのボランティア



水谷 唯くん [小学6年生]
おもちゃ図書館ともだちのボランティア

水谷 実は僕、習い事もいっぱい掛け持ちしていて大変だけど、おもちゃ図書館の活動は月1回、日曜日に3時間だけだから続けられる。それに、おもちゃ図書館の皆さんとも仲良くなったし、雰囲気の良いから、「また行きたい!!」って思います。おもちゃを直す作業をもっとしたいな。

杉原 部活動もやっていますが、テニスは日曜日だし、老人ホームのボランティアは自分で行く日を決められるので、参加しやすいです。中学を卒業してからも続けたいと思っています。

活動を通して感じたこと

梶浦 やっぱ笑顔が原動力かな。私の話に心から笑ってくれるのがうれしいし、一緒にキャンプに行った自閉症の子が、ニコッと笑って手を握ってくれた時は「参加して良かった!」と思いました。

これからはもっとコミュニケーション能力を磨きたいと思っています。相手に合わせたり、気持ちを察する力とか。ボランティアで学んだことが、きっと将来も役に立つと思います。

杉原 視覚障害者の人たちと一緒に地下鉄の駅から体育館まで歩いた時に、点字ブロックがない場所が多いことに気付いたんです。そうしたら、今ある点字ブロックも昔はなくて、視覚障害者の人たちが何年も市役所の人と交渉して設置されたという話を聞きました。ガードレールがないところも危ないなと気が付きました。障害者の人たちが暮らしやすい街になってほしいな。

水谷 僕はおもちゃ図書館に来る小さな子どもたちの動きが読めなくて困ってます。走り回る子もいれば、カー

トで思い切り突っ込んで来たりする子もいて、危ないなと思います。でも、本気で怒って泣かせてしまっけなないので...、その辺りは気をつけています。

中学生以上でないといけないボランティアもあるし、もっと自分にできることがあるんじゃないかなと思うので、中学生になったら新しいボランティアもやってみたい!

これからボランティアを始める皆さんへ

梶浦 ボランティアは見返りを求めるのではなく、自分ができるところを進んですることだと思っています。私は今、骨髄バンクのドナー登録をしていますが、自分が健康に暮らしながらドナーが必要になった時の連絡を待っていれば良い、とても簡単なボランティア。まずは献血とか、気軽にちょっとずつ参加していけば良いと思います。

水谷 そうそう。ボランティアというと災害ボランティアとかを思い浮かべる人が多いかもしれないけど、募金活動などいろいろな活動がある。だから、ボランティアを始めようかなという人は、そういう身近なところから始めると良いと思います。

杉原 ボランティアをしている人は心が温かいので、一緒に活動することで自分の心も温かくなると思います。

「ぼらマッチ!なごや」

名古屋市と名古屋市社会福祉協議会主催で、毎年6月に開催される。さまざまな分野の団体のブース出展や体験コーナー、講座やトークショーなど盛りだくさんのボランティアマッチングイベント。

